

事務事業分析シート（平成29年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-02-22	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	荒川ふるさと文化館管理運営費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	担当者名	古澤	課長名	浦田
						内線	1782
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（29年度）	01-01-01	荒川ふるさと文化館管理費					
	01-02-01	荒川ふるさと文化館一般運営費					
事務事業の種類	新規事業（29年度 28年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	10年度	根拠	荒川区立荒川ふるさと文化館条例		
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	03	伝統文化の保存と継承				
目的	常設展示や企画展示、文化財の保存・収集・伝統技術関連等の事業、情報提供等を行うための施設維持管理と管理運営を行い、区民の生涯学習の振興並びに荒川区における教育、学術及び文化の発展に寄与する。						
対象者等	区民全般・荒川ふるさと文化館利用者等（共有区分 南千住図書館利用者）						
内容	<p>【主な所轄事業】</p> <p>荒川区に係る考古、歴史、民俗等資料の収集及び保存 常設展示及び特別展示事業(企画展等) 資料に係る専門的な調査研究 文化財の保存及び活用 郷土学習のレファレンス(資料紹介や学習アドバイス、団体見学対応等) 教育、学術及び文化の振興に関する事業(各種講座) 伝統技術の保護と育成(荒川学校職人教室・伝統技術展、荒川区伝統工芸技術継承者育成事業等)</p> <p>平成28年度に伝統工芸ギャラリーを新たに整備し、平成29年5月より運営開始。</p>						
経過	<p>【所在地】荒川区南千住6-63-1(南千住図書館と併設)【土地面積】2,723.96㎡ 【建物面積】1,499.89㎡【延床面積】5,720.69㎡(文化館2,584.59㎡、図書館2,686.1㎡) 【構造】鉄筋コンクリート地上4階、地下1階 【施設内容】地下1階：収蔵庫(261㎡)、視聴覚室(84㎡・45人)、研修室(53㎡・30人)、工作室(59㎡) 1階：常設展示室(506㎡)、企画展示室(148㎡)、郷土学習室(84㎡) 2階：調査研究室(40㎡) 4階：事務室(282㎡、図書館共用部分含む)工期】建物：平成7年10月19日～10年3月31日、常設展示：平成8年10月1日～10年3月31日 【休館日】月曜日(月曜が祝日・振替休日の場合は開館、翌日休館)、毎月第2木曜日、館内整理日、年末年始(12月29日～1月4日)【入館料】100円(区内在住の障がい者とその介護者・65歳以上・中学生以下は無料)【開設】平成10年5月1日(開館時より南千住図書館と一括で施設管理委託) 建物建設3,113,381,000円 展示製作委託319,300,000円 外構(駐車場・駐輪場等)167,023,500円</p>						
必要性	荒川の歴史や文化に関心を持ち、より深く理解してもらい、郷土愛を育むため施設運営を行う必要性は高い。千住宿・奥の細道関係の観光スポットとしても注目され、平成26年度開催の奥の細道サミットの関連事業の拠点の一つになった。伝統工芸ギャラリーの来館者の増加が見込まれる。						
実施方法	(2一部委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) 清掃、警備、受付、エレベーター・電気工作物保守等は委託						

(単位：千円)

予算・決算額等の推移		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額		49,488	52,712	57,659	80,960	51,678	80,038	53,914
決算額(29年度は見込み)		47,001	51,892	56,489	73,927	50,180	70,318	53,914
実績の推移	事項名(29年度は見込み)	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	文化館利用者数(人)	23,702	18,709	19,981	20,771	23,022	19,085	23,400
	展示室観覧者数(人)	18,589	14,446	15,458	16,556	17,657	15,530	18,200

予算・決算の内訳								
平成27年度(決算)			平成28年度(決算)			平成29年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
報酬	学芸員報酬	16,021	報酬	学芸員報酬	16,288	報酬	学芸員報酬	16,136
共済費	学芸員社会保険料	2,163	共済費	学芸員社会保険料	2,290	共済費	学芸員社会保険料	2,053
旅費	郷土資料調査等旅費等	28	旅費	郷土資料等調査旅費	13	賃金	アルバイト	661
需用費	光熱水費等	10,822	需用費	光熱水費等	10,739	報償費	無形文化財保持者保守謝礼	20
役務費	電話料金等	1,031	役務費	電話料金等	1,069	旅費	郷土資料等調査旅費	45
委託料	建物維持管理業務委託等	19,718	委託料	建物維持管理業務委託等	39,322	需用費	光熱水費等	12,336
使用料等	印刷機賃借料等	119	使用料等	印刷機賃借料等	134	役務費	電話料金等	1,230

	勘定科目			勘定科目	勘定科目			
	27年度	28年度	差額		27年度	28年度	差額	
行政コスト計算書	行政費用	給与関係費		6,172	行政収入	地方税		0
		物件費		49,314		国庫支出金		0
		維持補修費		2,396		都支出金		0
		扶助費		0		分担金及び負担金		0
		補助費等		30		使用料及び手数料		408
		減価償却費		40,228		その他		0
		不納欠損・貸倒引当金繰入額		0		行政収入合計(a)		408
		賞与・退職給与引当金繰入額		228		行政収支差額(a)-(b)=(c)		97,960
		その他行政費用		0		金融収支差額(d)		0
		行政費用合計(b)		98,368		通常収支差額(c)+(d)=(e)		97,960
特別費用(g)		0	特別収入(f)		0			
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	当期収支差額(e)+(h)		97,960			

備考 行政費用では、施設管理に関する委託料など、物件費が多くかかっている。また、学芸員の報酬については、他事業にも携わっているため、関係している事務事業分析シートの給与関係費に分配されている。

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		26年度	27年度	28年度	29年度見込み	目標値(38年度)	
標	文化館利用者数(人)	20,771	23,022	19,085	23,400	25,000	展示室観覧者+伝統工芸ギャラリー
	文化館展示室観覧者数(人)	16,556	17,657	15,530	18,200	18,200	
	観覧者アンケートの満足度(%)				70	90	

問題点・課題	<p>開設後17年以上が経過し、空調設備、地階天井部分の水漏れ等、経年劣化により修繕が必要。また、展示室の特定天井改修の施工年度等を検討する必要がある。</p> <p>28年度の企画展「三ノ輪の殿様」では来館者が増加したが、企画展開催回数減で総数は減少した。来館者を増やすため、伝統工芸ギャラリー開設情報、展示内容やHPの充実、伝統工芸ギャラリーの運営を充実させ、SNSの活用、南千住図書館が設置するデジタルサイネージ等、PR方法の改善を検討する。</p> <p>南千住図書館との運営について検討を要する。また、奥の細道矢立初めの地を周知する常設展示室の奥の細道コーナーの新設等の検討が必要である。</p>
他区の実況	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)

問題点・課題の改善策		
平成28年度に取り組む具体的な改善内容	平成28年度に実施した改善内容および評価	平成29年度以降に取り組む具体的な改善内容
修繕対象箇所を調査し、継続して計画的に修繕していく。	修繕対象箇所を調査し、緊急性の高いものから計画的に修繕を行った。	地階天井部分の水漏れ修繕をはじめ、対象箇所を調査しながら継続して修繕していく。
他の同様施設のHPを参考に、より親しみやすく分かりやすいコンテンツ作り、SNSの活用を図り、さらなる改善を目指す	他の同様施設のHPを参考にしながら、より親しみやすく分かりやすいコンテンツの作成に取り組んだ。	展示内容の充実に加え、SNS及び南千住図書館が設置するデジタルサイネージ等の活用を図り、PR方法のさらなる改善を検討する。
郷土学習室のリニューアルの実施に当り、関係団体等と運営や事業内容の検討を行っていく。	伝統工芸ギャラリーのオープンに向けて、関係団体等と運営や事業内容の検討を行い対応した。	伝統工芸ギャラリーの事業の充実。奥の細道コーナーを含めた常設展リニューアルの検討を行う。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
29年度	30年度	
推進	推進	常設展示、企画展示、文化財の保存・収集・伝統技術関連事業等の情報提供等を行う。

況議(要質問状)	平成26年度 2月会議 荒川ふるさと文化館のあり方について
----------	-------------------------------

事務事業分析シート（平成29年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-02-23	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	荒川ふるさと文化館事業推進費		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	浦田	
			担当者名	曲田	内線	1782	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（29年度）	01-02-02	荒川ふるさと文化館事業推進費					
事務事業の種類	新規事業（29年度 28年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	10年度	根拠	荒川区立荒川ふるさと文化館条例		
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	03	伝統的文化の保存と継承				
目的	常設展示の補完と文化財普及・啓発のために、企画展、講座等の事業を実施し、文化財保護への理解と郷土愛を深めるようにする。						
対象者等	区民全般、荒川ふるさと文化館来館者						
内容	<p>企画展：平成26年度までは年2回、平成27年度以降は年1回開催。会期1～2か月間。企画展示室においてテーマに基づいた展示を行う。観覧料は条例により「1000円を超えない範囲で教育委員会が定める」とされているが、常設展示と合わせて100円で実施。</p> <p>館蔵資料展：年1～2回開催。会期1～2か月間。館が所蔵している文化財、新たに購入した文化財等、テーマを設定し、展示を行う。</p> <p>子ども向け講座：夏休み期間に[夏休み子ども博物館]として「リトル学芸員」「あらかわ職人道場」「勾玉づくり」「俳句を作るう」等の体験学習を実施。</p> <p>一般向け講座：「古文書講座（初級・中級）」「地域史講座」「史跡めぐり」等（講師は文化館学芸員）、「文化財講座」はテーマを設定し様々な角度から荒川を探る講座（外部講師）を実施。</p> <p>文化財交流事業：区や交流都市の文化財を通しての文化交流、平成25年度以降、奥の細道関連自治体のPRを中心に実施。</p>						
経過	<p>平成26年度事業：企画展「モノ・道具・暮らし展 -昔の暮らしを調べてみよう-」、「奥の細道・旅立ち展」（奥の細道千住あらかわサミット関連事業として開催）、パネル展「続・俳句を探（たず）ねる小さな旅 -芭蕉・梅翁・一茶-」、館蔵資料展「速報！あらかわの文化財展」等の開催。・夏休み子ども博物館、七夕まつり、古文書講座、史跡めぐり、文化財講座等の開講。</p> <p>平成27年度事業：企画展「続・下町の空想画家 小松崎茂展」、パネル展「千住大橋のむかし～木橋時代～」、館蔵資料展「速報！あらかわの文化財展」「あらかわのたからもの」等の開催。・夏休み子ども博物館、七夕まつり、古文書講座、史跡めぐり、地域史講座、文化財講座等の開講。</p> <p>平成28年度事業：企画展「三ノ輪の殿様 あらかわの大名屋敷」、館蔵資料展「速報！あらかわの文化財展」「あらかわのたからもの展」等の開催。金子兜太氏の句碑設置に伴い解説パネル掲示、夏休み子ども博物館、七夕まつり、古文書講座、史跡めぐり、地域史講座、文化財講座等の開催。</p>						
必要性	収集した資料・情報を活用し、区民に郷土の歴史・文化に親しみ理解を深める機会を提供しており、また区の歴史・文化を資源として活用し区のPRに役立てており、必要性は高い。講座はコミュニティカレッジ連携講座にも位置づけられ、区民自らが郷土の歴史を探求する手法を学ぶ場となっている						
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)						

(単位：千円)

予算・決算額等の推移		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額		7,408	7,021	6,885	7,302	4,826	6,127	6,209
決算額（29年度は見込み）		5,795	5,616	5,766	6,307	3,808	5,177	6,209
実績の推移	事項名（29年度は見込み）	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	企画展（回）	2	2	2	2	1	1	1
	館蔵資料展（回）	1	1	1	1	2	2	2

予算・決算の内訳								
平成27年度（決算）			平成28年度（決算）			平成29年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	企画展図録・ポスター等	1,270	需用費	企画展図録・ポスター等	1,494	需用費	企画展図録・ポスター等	2,061
委託料	企画展示等製作委託	1,048	委託料	企画展示等製作委託	1,955	委託料	企画展示等製作委託	2,513
役務費	企画展美術梱包輸送	861	役務費	企画展美術梱包輸送	1,615	役務費	企画展美術梱包輸送	1,001
報償費	企画展講演会謝礼等	352	報償費	企画展講演会謝礼等	416	報償費	企画展講演会謝礼等	494
旅費	企画展展示資料調査旅費	146	旅費	企画展展示資料調査旅費	512	旅費	企画展展示資料調査旅費	90
賃借料	展示品に係る賃借料・使用料	131	賃借料	展示品に係る賃借料・使用料	150	賃借料	展示品に係る賃借料・使用料	50

	勘定科目			勘定科目	勘定科目		
	27年度	28年度	差額		27年度	28年度	差額
行政コスト計算書	行政費用			行政収入			
	給与関係費		16,648	地方税		0	
	物件費		4,833	国庫支出金		0	
	維持補修費		0	都支出金		0	
	扶助費		0	分担金及び負担金		0	
	補助費等		344	使用料及び手数料		0	
	減価償却費		0	その他		346	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額		0	行政収入合計(a)		346	
	賞与・退職給与引当金繰入額		615	行政収支差額(a)-(b)=(c)		22,094	
	その他行政費用		0	金融収支差額(d)		0	
行政費用合計(b)		22,440	通常収支差額(c)+(d)=(e)		22,094		
特別費用(g)		0	特別収入(f)		0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	当期収支差額(e)+(h)		22,094		
備考	行政費用では、給与関係費が多くかかっている。						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		26年度	27年度	28年度	29年度見込み	目標値(38年度)	
標	企画展入館者数(人)	5,684	5,111	4,004	5,000	5,000	26年度までは年2回、27年度以降は年1回開催
	各種事業延べ参加者数(人)	477	385	289	500	600	講座・講演会などの延参加者数

問題点・課題	企画展、館蔵資料展については、テーマや内容により入館者数が大きく変動する。28年度は郷土学習室のリニューアル等により、開催の回数が減り、入館者が減少した。今後さらに区民のニーズを踏まえたテーマの設定や、質の高い展示を行い、リピーターを増やしていく必要がある。また、エントランスの奥の細道サミット関連自治体を中心とした文化財交流等のパネル掲示等の運用について工夫する。 各種事業参加者が減少傾向にあるため、類似の事業を実施している課の情報を収集するとともに、観光や文化振興所管課と調整を図り、文化館の特性をより生かした事業を展開することが必要である。
他区の実況	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)

問題点・課題の改善策		
平成28年度に取り組む具体的な改善内容	平成28年度に実施した改善内容および評価	平成29年度以降に取り組む具体的な改善内容
将来の展示内容の更新を見据え、資料の一層の充実を図る。また、SNSの活用を模索していく。	小松崎茂の油彩画の公開や地域の特徴を生かした武家屋敷の展示に関する情報をSNSで発信することで、来館者の増加につながった。	区制85周年を祝し、「あらかわの文化財展」を開催し、SNSや南千住図書館設置の「サイネージ」を活用しPRをはかる。
南千住図書館の特徴を生かした事業を具体的に検討する。	南千住図書館と連携を図り関連図書書の充実、配架を依頼することで、事業の質の向上につながった。	新たに開設した伝統工芸ギャラリーを活用し、関連事業の企画検討を行う。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
29年度	30年度	
継続	継続	郷土の歴史や、文化に親しむ講座・展示等を提供する事業を実施する。

況議(要質問状)	平成25年度 二定 荒川区にゆかりのある小松崎茂に関する展示について
----------	------------------------------------

事務事業分析シート（平成29年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-02-24	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	奥の細道矢立初めの地 子ども俳句相撲大会	子ども俳句	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	浦田	1782
			担当者名	曲田	内線		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（29年度）	01-02-03	奥の細道矢立初めの地 子ども俳句相撲大会					
事務事業の種類	新規事業（29年度 28年度）		建設事業	それ以外の継続事業			
開始年度	昭和	平成	19年度	根拠			
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	03	伝統的文化の保存と継承				
目的	区内の小学生が、「俳句」という日本伝統の文化を学び、国語能力向上につなげるようにする。また、南千住が松尾芭蕉の「奥の細道」旅立ちの地であることから、むすびの地である大垣市と、俳句の事業を通じて、住民同士の交流を深めることを目指す。						
対象者等	区内の小学生						
内容	夏休み子ども博物館俳句教室（夏休み 荒川ふるさと文化館） 大垣市「芭蕉蛤塚忌全国俳句大会」（10月 大垣市） 文化祭・俳句展示会ジュニア部門募集（展示11月 町屋文化センター） 大垣市「東西俳句相撲」（2月 大垣市 平成27年度までは11月） 前年度子ども俳句相撲大会上位者を派遣（小学生2人×2組） 奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会【予選】（1月 区内） 奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会千秋楽【本選】（3月 区内） 予選通過チーム及び大垣市からの招待チームによるトーナメント						
経過	平成19年度：第1回「奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会」を荒川ふるさと文化館企画展「千住大橋鉄橋80周年」の関連事業として実施。以降20年度から年1回3月に単独事業として実施（22年度・23年度は震災の影響で中止）。 平成27年度：「東西俳句相撲」（大垣市）に区内の小学生2組4名を派遣、大関賞（準優勝）を受賞。「奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会」日時：28年3月12日（土）、会場：素盞雄神社。大垣市から小学生2組4名を招待。 平成28年度：「東西俳句相撲」（大垣市）に区内の小学生2組4名を派遣、大関賞（準優勝）を受賞。「奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会」日時：29年3月11日（土）、会場：素盞雄神社。大垣市から小学生3組6名を招待。						
必要性	荒川区俳句のまち宣言を受け、子どもたちが俳句文化に触れる機会を充実させ、南千住が奥の細道矢立初めの地であることを学び、郷土愛を育む事業として必要性が高い。また、奥の細道の結びの地である大垣市との交流を深める。地域の伝統文化を生かした事業としてマスコミに注目されている。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額		1,171	684	835	854	951	1,008	1,052
決算額（29年度は見込み）		0	476	649	754	868	902	1,052
実績の推移	事項名（29年度は見込み）	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予選参加チーム数（組）	-	227	245	180	217	139	201
	（予選参加者数）	-	(254)	(490)	(360)	(434)	(278)	(402)

予算・決算の内訳								
平成27年度（決算）			平成28年度（決算）			平成29年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	消耗品等	186	需用費	消耗品等	288	需用費	消耗品等	293
委託料	会場設営委託	396	委託料	会場設営委託	435	委託料	会場設営委託	435
報償費	大会選者等謝礼	122	報償費	大会選者等謝礼	107	報償費	大会選者等謝礼	127
旅費	大会・引率派遣旅費	74	旅費	大会・引率派遣旅費	78	旅費	大会・引率派遣旅費	78
負担金補助等	大会派遣参加費	63	負担金補助等	大会派遣参加費	58	負担金補助等	大会派遣参加費	81
役務費	賞状筆耕料	27	役務費	賞状筆耕料	27	役務費	賞状筆耕料	38

	勘定科目			勘定科目	勘定科目		
	27年度	28年度	差額		27年度	28年度	差額
行政コスト計算書	行政費用			行政収入			
	給与関係費		8,783	地方税		0	
	物件費		739	国庫支出金		0	
	維持補修費		0	都支出金		0	
	扶助費		0	分担金及び負担金		0	
	補助費等		163	使用料及び手数料		0	
	減価償却費		0	その他		0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額		0	行政収入合計(a)		0	
	賞与・退職給与引当金繰入額		325	行政収支差額(a)-(b)=(c)		10,010	
	その他行政費用		0	金融収支差額(d)		0	
行政費用合計(b)		10,010	通常収支差額(c)+(d)=(e)		10,010		
特別費用(g)		0	特別収入(f)		0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	当期収支差額(e)+(h)		10,010		
備考	行政費用では、給与関係費が多くかかっている。						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		26年度	27年度	28年度	29年度見込み	目標値(38年度)	
標	子ども俳句相撲大会予選参加者数(組)	180	217	139	201	250	2人一組で応募する
	参加者アンケートの満足度(%)				80	100	

問題点・課題	俳句を通して日本の伝統文化を学ぶことができ、また、国語能力の向上につながる。大垣市との関係も回を重ねるほどに深まっており、今後も引き続き小学校全校に参加を促すために、教育委員会とさらなる連携が必要である。 素盞雄神社で開催する場合は会場スペースの関係で、いま以上に観客席を増やすことが難しい。今後は地域との連携を強めた運営方法を検討する必要がある。
他区の実況	(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)

問題点・課題の改善策		
平成28年度に取り組む具体的な改善内容	平成28年度に実施した改善内容および評価	平成29年度以降に取り組む具体的な改善内容
参加者の増加を図るには、学校行事や季節的な配慮から開催日時、開催会場等について検討する必要がある。	出場チームは若干減少したが、校長会に対する説明により、参加校は増加した。	より多くの区内小学校の参加が得られるよう、前年度不参加だった学校に対し、積極的に働きかけを行う。
さらに地域との連携を深め、周知を図り、観覧者の増加と奥の細道矢立初めの地のPRにつなげる。	会場設営を工夫し事前予約を行い、より多くの見学者の席確保に努めた。来場者へプログラムを配付し奥の細道ゆかりの地をPRした。	会場設営の改善を図り、観覧しやすい環境を整える。マスコミ等に取材を呼びかけ、俳句の街あらかわのPRにつなげる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
29年度	30年度	
推進	推進	俳句という伝統文化を通じて、子どもたちの国語能力の向上を図るとともに、「俳句のまちあらかわ」奥の細道旅立ちの地南千住を区内外に発信する。

議(要旨)況	平成27年度 2月会議 俳句宣言後の取組について
--------	--------------------------

事務事業分析シート（平成29年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-02-25	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	文化財保護奨励費		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	浦田	
			担当者名	曲田	内線	1782	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（29年度）	01-03-01	文化財保護審議会					
	01-03-02	文化財保護奨励					
	01-03-04	映像記録保存					
事務事業の種類	新規事業（29年度）	28年度	建設事業	それ以外の継続事業			
開始年度	昭和	平成	47年度	根拠	荒川区文化財保護条例	文化財保護法	
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	03	伝統的文化の保存と継承				
目的	区民に伝えられる有形・無形の文化財を区民全体の財産として、その保存・活用のための必要な措置を講じ、区民の文化的向上に資するとともに、郷土文化の振興と発展に貢献する。						
対象者等	区民一般、文化財所有者・保持者・団体、文化財保護審議会委員、文化財保護推進員、土地・建築関係業者						
内容	文化財保護審議会 教育委員会の諮問を受け答申する。27年度区登録2件・区指定2件。 文化財保護推進員 文化財の保護と啓発活動をする非常勤職員 区民15名で構成 ・隔月推進員会の開催 ・区内文化財等の調査活動 ・文化館事業等への協力 史跡説明板 27年度既設の史跡説明板133基の内2基に英訳板を設置 年中行事・民俗芸能映像記録保存 27年度「諏方神社の年中行事と江戸の里神楽」 埋蔵文化財の調査「文化財保護法」により、区内周知の包蔵地における土木工事等の届出に関する事務処理（都へ進達他）、確認調査立会い、本格調査の実施に関する調整事務を行う 文化財保護奨励金等の交付 区登録・指定文化財の所有者、保持者及び団体に奨励金を交付。区指定文化財の修理に対し補助金を交付。 祭礼等伝統行事総合調査 27年度から実施。29年度石浜神社例本祭、素盞雄神社天王祭陰祭、諏方神社本祭						
経過	主な経過 平成19年度：旧三河島汚水処分場唧筒場国重文指定、旧三河島汚水処分場唧筒場国重文指定 平成21年度：旧千住製絨所煉瓦塀が日本紙通商株式会社より区に寄贈（補強工事実施）、橋本佐内墓旧套堂復元工事実施 平成22年度：旧千住製絨所煉瓦環境整備工事・説明板設置 平成23年度：小塚原首切地蔵復元工事（第1・2期） 平成24年度：小塚原首切地蔵復元工事（第2期） 平成24年度：養福寺二天像修復工事（第1期） 平成25年度：養福寺二天像修復工事（第2期） 平成27年度：養福寺仁王門修復工事（第1期）、祭礼等伝統行事総合調査（素盞雄神社天王祭本祭） 平成28年度：養福寺仁王門修復工事（第2期）養福寺の伝毘沙門天像が東京国立博物館で展示された（4月） 祭礼等伝統行事総合調査（石浜神社本祭、素盞雄神社天王祭陰祭）						
必要性	荒川区の歴史・文化を知るうえで貴重な有形・無形の文化財を保護し、区の伝統・文化を次代に伝えるため、また区の文化資源として活用するため、必要である。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 文化財保護審議会（文化財登録・指定の場合） 教育委員会事務局内部調査 文化財保護審議会に諮問 審議・部会調査 答申 教育委員会決定 告示						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
予算額	11,465	14,416	11,670	12,730	17,001	14,185	19,450	
決算額（29年度は見込み）	7,378	11,767	9,034	9,911	13,032	10,771	19,450	
実績の推移	事項名（29年度は見込み）	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	文化財保護推進員（回）	6	6	6	6	6	6	6
	文化財保護審議会・部会（回）	8	8	8	6	6	8	8
	指定・登録文化財件数（件）	6	4	6	4	4	4	4
	埋蔵文化財調査支援委託（件）	7	8	10	16	21	14	18

予算・決算の内訳								
平成27年度（決算）			平成28年度（決算）			平成29年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報酬	文化財保護審議会委員等	1,887	報酬	文化財保護審議会委員等	2,013	報酬	文化財保護審議会委員等	2,370
報償費	祭礼調査等謝礼	340	報償費	祭礼調査等謝礼	272	報償費	祭礼調査等謝礼	1,524
旅費	文化財保護審議会委員等旅費	103	旅費	文化財保護審議会委員等旅費	35	旅費	文化財保護審議会委員等旅費	113
需用費	埋文等消耗品	776	需用費	埋文等消耗品	308	需用費	埋文等消耗品	849
役務費	文化財登録書筆耕料等	55	役務費	文化財登録書筆耕料等	4	役務費	文化財登録書筆耕料等	91
委託料	指定無形文化財標札等	5,153	委託料	指定無形文化財標札等	3,188	委託料	指定無形文化財標札等	8,450
使用料等	煉瓦塀敷地借地料	166	使用料等	煉瓦塀敷地借地料	166	使用料等	煉瓦塀敷地借地料	167

	勘定科目			勘定科目	勘定科目		
	27年度	28年度	差額		27年度	28年度	差額
行政コスト計算書	行政費用			行政収入			
	給与関係費		9,058	地方税		0	
	物件費		3,702	国庫支出金		1,012	
	維持補修費		0	都支出金		506	
	扶助費		0	分担金及び負担金		0	
	補助費等		5,057	使用料及び手数料		0	
	減価償却費		0	その他		0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額		0	行政収入合計(a)		1,518	
	賞与・退職給与引当金繰入額		335	行政収支差額(a)-(b)=(c)		16,634	
	その他行政費用		0	金融収支差額(d)		0	
行政費用合計(b)		18,152	通常収支差額(c)+(d)=(e)		16,634		
特別費用(g)		0	特別収入(f)		0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	当期収支差額(e)+(h)		16,634		
備考	行政費用では、給与関係費と補助費が多くかかっている。						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		26年度	27年度	28年度	29年度見込み	目標値(38年度)	
標	文化財登録件数	258	260	262	266	284	
	文化財指定件数	58	60	63	65	83	

問題点・課題	登録文化財の候補は、寺社調査・区史編纂調査・石造物調査等で収集した情報から選定しており、建造物や近代遺産等の登録件数は少ないため、調査を実施し登録して保存する必要がある。伝統工芸技術の保持者について把握するための工夫を行い、登録して保存する必要がある。 急増する外国人観光客に対応するため、史跡説明板に英語訳の設置や、外国語のパンフレットの作成を進める必要がある。 文化庁の指導を受け、文化財の防犯防火対策に努める必要がある。
他区の実況	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)

問題点・課題の改善策		
平成28年度に取り組む具体的な改善内容	平成28年度に実施した改善内容および評価	平成29年度以降に取り組む具体的な改善内容
祭礼等伝統行事等総合調査として、石浜神社の本祭及び素盞雄神社天王祭陰祭の祭礼調査を実施する。	平成28年5月26日から29日まで石浜神社本祭を6月2日から5日まで素盞雄神社天王祭陰祭の祭礼調査を実施した。	平成29年度は素盞雄神社陰祭、石浜神社陰祭、諏方神社本祭の調査を行う。素盞雄神社天王祭の文化財登録の諮問を行う。
外国人観光客に、区の伝統工芸に対する取り組みを紹介するため、職人マップ英語版を作成し、区内外の施設に配置する。	伝統工芸技術展の開催に合わせ、職人マップ英語版を作成し、技術展会場の他、ホテルラングウッドや南千住方面のホテルに配置した。	外国人観光客に区の文化財や史跡を紹介するため、西日暮里地区の史跡説明板に英文説明板を設置する。
文化財の防犯防火対策を含めた現状確認と、情報交換に努める。	文化財の調査や奨励金の手続き、史跡めぐりの打ち合わせ時等に訪問し、文化財保護推進員と共に現状確認と情報交換を行った。	機会あるごとに文化財の所有者・保持者を訪問し、文化財保護推進員の協力を受けながら現状確認に努める。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
29年度	30年度	
重点的に推進	重点的に推進	区の有形・無形文化財を次代に伝えるとともに、区の文化資源として活用する。

況議(要質問状)	平成28年度 決特 天王祭の登録・指定について
----------	-------------------------

事務事業分析シート（平成29年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-02-26	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	江戸伝統技術		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	浦田	
			担当者名	坂牧	内線	1782	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（29年度）	01-03-03	江戸伝統技術					
事務事業の種類	新規事業（29年度 28年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	55年度	根拠			
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	03	伝統的文化の保存と継承				
目的	江戸時代から受け継がれてきた無形文化財である伝統工芸技術と保持者の存在を広く区内外に周知する。区民が伝統工芸技術の素晴らしさに触れることにより、技術の保存・継承への理解を深めるとともに、伝統工芸技術保持者の技術継承の意欲促進を図る。						
対象者等	伝統工芸技術及び保持者、伝統技術保持者の継承者、伝統技術展来場者、職人体験道場参加者 伝統工芸技術記録映像視聴者、文化館展示観覧者、学校職人教室実施校児童、観光客						
内容	<p>あらかわの伝統技術展：区内の伝統技術保持者等が一堂に会して、作品の展示・技術の実演・来場者の体験コ-ナ-等を行う（会場：荒川総合スポ-ツセンター）。</p> <p>荒川区伝統工芸技術継承者育成支援事業：荒川区登録無形文化財保持者、指定無形文化財保持者及び荒川区伝統工芸技術保存会会員を対象に、その技術継承者育成のための手当を支給する。</p> <p>学校職人教室：伝統工芸技術保持者が小学校に赴き、技術の実演・解説・児童の体験学習等を行う。</p> <p>伝統工芸技術記録映像制作：指定無形文化財保持者の伝統工芸技術を記録する映像を制作。</p> <p>伝統工芸品購入：指定無形文化財保持者の作品を購入（原則、記録映画で制作過程撮影した作品）。</p> <p>あらかわ職人道場：夏休み子ども博物館の事業として、伝統工芸技術を体験できる教室を実施。</p> <p>庁舎エントランス展示：平成20年度より荒川ブランドの伝統工芸品を展示。年3回展示替え。</p>						
経過	<p>あらかわの伝統技術展：昭和55年度より開催。平成29年度第38回（7月7日～9日）。</p> <p>荒川区伝統工芸技術継承者育成支援事業：平成21年度より実施（29年4月現在：対象者8人。）</p> <p>あらかわ学校職人教室：昭和59年度より開催。平成19年度より全校で実施。</p> <p>伝統工芸技術記録映画制作：昭和60年より実施。28年度：戸村絹代氏（つまみかんざし）/52本。</p> <p>伝統工芸品購入：平成元年より購入。28年度購入品：累計/58点。</p> <p>あらかわ職人道場：平成16年度試行実施し、17年度より予算化し本格実施。</p> <p>平成28年5月、ウィーン市ドナウシュタット区で開催された交流20周年記念イベントで、荒川区伝統工芸技術保存会会員、若手職人によるデモンストレーション及びワークショップを実施。</p> <p>○あらかわ伝統工芸ギャラリー：平成29年5月2日オープン。区登録・指定無形文化財保持者の作品を中心に年3回展示替えをし、月1回程度実演とワークショップを行う。</p>						
必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統工芸技術の素晴らしさを区内外に紹介し、理解を深める貴重な機会となっている ・区の伝統工芸技術の保存・継承のために欠かせない事業である 						
実施方法	（2一部委託）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 伝統技術展は荒川区・荒川区教育委員会・荒川区伝統工芸技術保存会の共催。技術展会場設営は業者委託。伝統工芸ギャラリーは荒川区伝統工芸技術保存会と協働運営。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額		41,998	33,686	29,589	31,873	33,150	36,253	36,639
決算額（29年度は見込み）		32,170	31,185	28,881	29,999	32,536	31,197	36,639
実績の推移	事項名（29年度は見込み）	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	「伝統技術展」入場者数（人）	14,000	15,000	13,200	14,700	14,400	15,700	16,000
	「継承者育成事業」参加者数	11	11	9	9	10	9	8
	「学校職人教室」参加校数（校）	24	24	24	24	24	24	24
	伝統工芸記録映像（本）（）内累計	1(47)	1(48)	1(49)	1(50)	1(51)	1(52)	1(53)

予算・決算の内訳								
平成27年度（決算）			平成28年度（決算）			平成29年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	伝統技術展等謝礼	15,772	報償費	伝統技術展等謝礼	2,560	報償費	伝統技術展等謝礼	3,260
需用費	伝統技術展ポスター製作費等	10,371	需用費	伝統技術展ポスター製作費等	1,650	需用費	伝統技術展ポスター製作費等	1,808
役員費	伝統技術展ポスター掲示等	2,420	役員費	伝統技術展ポスター掲示等	1,447	役員費	伝統技術展ポスター掲示等	1,823
委託料	伝統技術展会場設営委託等	1,416	委託料	伝統技術展会場設営委託等	11,108	委託料	伝統技術展会場設営委託等	12,880
使用料等	伝統技術展会場使用料等	651	使用料等	伝統技術展会場使用料等	924	使用料等	伝統技術展会場使用料等	1,059
備品購入費	伝統工芸品購入等	985	備品購入費	伝統工芸品購入等	258	備品購入費	伝統工芸品購入等	449
負担金補助等	匠育成事業補助金	634	負担金補助等	匠育成事業補助金	13,250	負担金補助等	匠育成事業補助金	15,360

	勘定科目			勘定科目	勘定科目		
	27年度	28年度	差額		27年度	28年度	差額
行政コスト計算書	行政費用			行政収入			
	給与関係費		12,073	地方税		0	
	物件費		12,185	国庫支出金		0	
	維持補修費		0	都支出金		0	
	扶助費		0	分担金及び負担金		0	
	補助費等		15,880	使用料及び手数料		0	
	減価償却費		0	その他		0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額		0	行政収入合計(a)		0	
	賞与・退職給与引当金繰入額		446	行政収支差額(a)-(b)=(c)		40,584	
	その他行政費用		0	金融収支差額(d)		0	
行政費用合計(b)		40,584	通常収支差額(c)+(d)=(e)		40,584		
特別費用(g)		0	特別収入(f)		0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	当期収支差額(e)+(h)		40,584		
備考	行政費用では補助費等が多くかかっている。						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		26年度	27年度	28年度	29年度見込み	目標値(38年度)	
標	伝統技術展入場者数(人)	14,700	14,400	15,700	16,000	16,000	
	技術展入場者アンケートの満足度(%)				80	100	
	伝統工芸ギャラリー入場者数(人)				23,400	25,000	

問題点・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統技術展等事業の一層の周知のため、区ホームページの内容を工夫し、PRの強化を図っていく。 ・あらかわ伝統工芸ギャラリーのPRを、本庁舎エントランス等を活用して積極的に行う。 ・伝統工芸技術の展示について、本庁舎エントランスと伝統工芸ギャラリーでの両立を図っていく。
他区の実況	<p>(実施 5 区 未実施 17 区 不明 0 区)</p> <p>伝統技術展は、他に文京・北・葛飾・江東・墨田・練馬・足立の7区で実施しているが、規模・業種・職人数で、基礎自治体の事業として最大級であり全国一である。学校職人教室は全国で荒川区のみ。伝統工芸技術継承者育成支援事業は、文化財保護事業として実施している自治体は全国で荒川区のみ</p>

問題点・課題の改善策			
	平成28年度に取り組む具体的な改善内容	平成28年度に実施した改善内容および評価	平成29年度以降に取り組む具体的な改善内容
	荒川ふるさと文化館のホームページの内容を工夫し充実を図る。また、SNSを活用して一層の周知を図る。	荒川ふるさと文化館のホームページの更新頻度を上げた。保存会のSNSとの連携を図り、情報が更に広まって集客等につながった。	荒川ふるさと文化館のホームページを見やすく、親しみやすい構成に改修する。SNSの活用、保存会のHPなどとの連携を図る。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
29年度	30年度	
重点的に推進	重点的に推進	平成29年5月にオープンした「あらかわ伝統工芸ギャラリー」の運営と匠育成支援事業の充実を図る。

議(要旨)況	
--------	--